

こんにちは 牛越です

【第173回】
気象の変化と
気候変動



大町市長
牛越 徹

今年の正月は、昨年12月の早めの降雪が根雪となり、雪景色に包まれました。また、気温も下がり、年明け早々には、氷点下11・7度まで下がりましたが、一転して2日後には雨降りになるなど、気温が乱高下する荒れた天気になりました。

この気象状況は、日本周辺に低温をもたらすラニーニャ現象が発生していたとみられ、さらに「負の北極振動」により偏西風の蛇行が大きくなり、日本に流れ込むシベリアの寒気が水温の高い日本海から大量の水蒸気を吸い込み、列島に大雪をもたらしたものと考えられます。

また、新聞では昨年の日本の平均気温が、平年値(令和2年までの30年間の平均値)を1・48度も上回り、約130年前の統計開始以降で最も高くなったことが報じられました。日本の平均気温は、長期的には100年当たり1・40度のペースで上昇しているといい、これさえも超えています。

市では、令和4年3月に「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、地球規模の気候変動に対し、市民、事業者が一体となり、

小水力や木質バイオマスなどの地域特性を生かした再生可能なエネルギーの普及と、循環型社会の形成を目指すリサイクルなど省資源、省エネを推進することとしました。そして、美しく豊かな自然環境を保全し、未来を託す世代に持続可能な地域を引継ぐため、二酸化炭素の排出量削減に努め、2050年までにゼロカーボンの達成を目指しています。

また、国連でも、気候変動を抑える国際間の枠組みとして、2015年のパリ協定により、地球温暖化につながる汚染物質を削減し、気温の上昇を抑えるよう努力することを、気候変動枠組条約加盟国196カ国共通の目標としました。

一方、先月20日に就任した米国のトランプ大統領は、残念なことにパリ協定から再び脱退することを表明しており、これまでの国際的な気候変動対策の取り組みが大きく後退することが心配です。

身近な地域の気象とともに、急速に温暖化が進む地球全体の気候変動にも、深い関心を持っていただきたいと思います。